丸山湿原群保全の会会報

（第 121 号）

発行日：平成 29 年８月 16 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

あっという間にお盆が過ぎ、そろそろ秋の雰囲気が漂い始めました。秋の七草のキキョウ（桔梗）やオミナエシ（女郎花）、ハギ（萩）も咲いています。でも蒸し暑さと高い気温は相変わらずです、体調を崩す方も多いのではないでしょうか。

梅雨の雨はそれほどでもなく、降ったのか降っていないのかもよくわからない状態でした。今もよくわからりませんが、ため池を見てみるとそこそこの量は降っているようです。ピンポイントの雨が多く、西谷の村単位でも降っているところと降らないところがはっきりしている天候です。やはり異常というしかないのでは。この上、戦争でも起これば地球環境はいったいどうなるのでしょうか。身近なところから、地球が見えてしまう時代になってしまったような気がします。今、生活の中で何ができるか考えていきたいものです。

（今住　８月 15 日作成）

活動報告

★7 月 23 日（日）定期観察　７名で活動　第３湿原ササ刈り

昨年から実施している夏場のササ刈り。湿原を乾燥化し（乾燥化したから入ってきたのだが…）さらに日陰になることによる多様性の低下を招くササ。**夏場は最も元気で養分を蓄える時期。この時期のササ刈りは最もダメージを与え効果的。**昨年刈り取ったところはササが再生しているものの、かなり短くひ弱。続けることで湿原を再生する糸口になると思われます。しかし、**気温は 30 度越え。昨年も死を意識したほどでした。**（少し大げさな表現はご勘弁を…2016 年７月 30 日の blog を見てください　）

刈り取り前の第３湿原

刈り取り後の第３湿原

刈り取り後のササ処理

今年は参加人数も少し増え、第１湿原上流部まで午後も頑張るぞと意気揚々。昼過ぎに第３湿原を終了。しかし気力は完全にダウン。「まー今年はこれぐらいにしといたろ！」と諦めて帰りました。けが、倒れる人がいなくてほっとしました。ササ刈りの効果はきっと来年確認できるはずです。ご苦労様でした。きっともうすぐ刈り取った後に、センブリが咲くと思います。湿生植物ではないのが玉に瑕ですが。センブリの葉をかみしめて気合を入れていきましょう！来年もよろしくお願いします。でも、無理は禁物です。できることを無理なく。

極秘活動報告

７月 31 日（月）シャジクモ類調査　３名（神大准教授１名を含む）

極秘？に行われた活動です。一昨年から気になっていたシャジクモ類（車軸藻類）の同定依頼を神戸大学准教授坂山氏に依頼しました。シャジクモ類のスペシャリストです。今回わざわざ来ていただきました。（かなりマニアックな分野になりますがお付き合いを）

水田採取のシャジクモ 2013.7 玉瀬

シャジクモ類は大きく分けて、ジャジクモ属（チャラ）とフラスコモ属（ニテラ）の二つに分かれます。以前は植物に分類されていたようですが、系統が全く違うということで藻類（より原始的なもの）に分類されました。しかし、その生態から最も陸上植物に近い藻類と言われています。このシャジクモ類は研究する方が少なくまだまだ未知の領域だとか。同定も大変困難です。しかも水質の悪化に伴い、どんどん数を減らしている藻類です。見た目は水草に見えます。環境省のRDB にはほとんどの種が記載され、だいたいが絶滅危惧Ⅰ類となっています。西谷の多くの田んぼに見られる普通のシャジクモ（車軸藻）すらⅡ類ですから驚きです。あまり調査が行われることがなく、知られていないというのも原因ですが、知らぬ間に日本から消えているかもしれない生き物です。

丸山のフラスコモを観察する坂山氏

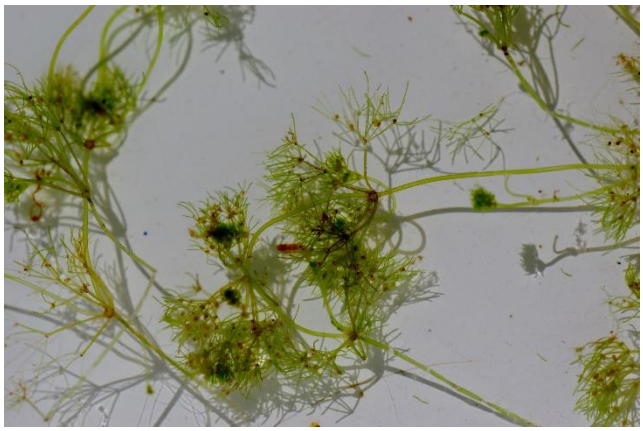
水田のシャジクモ 2012.8 玉瀬

シャジクモ（車軸藻）は字の通り車の軸のように、一本の軸から自転車のスポークのように広がった針のような軸を出します。水の澄んだ田んぼをのぞいてみて下さい。意外に見つかりますよ。高校の理科の実験で原形質流動の観察に使われていたこともあるそうです。とにかくひとつの細胞がでかい！節のひとつそのものが１細胞です。（ややこしいですね。）

水田溝のシャジクモ 2011.8 大原野

話が飛び申し訳ありません。丸山です。

丸山では藻類の調査はあまりされていないようです。それで、以前から、溝などをごそごそ観察していました。すると茶色（酸化鉄？シルト？）に染まったモヤモヤする物体がありました。それを、きれいにしてみると緑色のものが…フラスコモの一種と直感しました。写真を撮り昨年同定依頼するも画像が悪く同定困難と･･･しょんぼりでした。まーええかと思っていたのですが、７月の皿池湿原三田市天然記


丸山のフラスコモ Sp　2016 年に撮影した画像

念物指定の新聞記事に、セイロンフラスコモ（RDB Ⅰ類）などの貴重種が…と。俄然意欲がわき坂山氏の登場となりました。丸山湿原のような環境ではあまり見られないとのこと。同定はその場では困難で持ち帰り。電子顕微鏡での観察と、分子系統解析をするそうです。なんかよーわかりませんが。もしかして新種の可能性も。少々時間はかかりますが夢は膨らみます。乞うご期待！

活動報告

★8 月 12 日（土）定期活動　サギソウ開花数調査準備

10 名で活動（一般参加者 2 名を含む）

定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、サギソウ開花数調査準備（ササ刈り・縄張り）

目的	市内	市外
丸山	12	34
ハイキング	10	1
その他	0	0

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10：00	28.0℃		
視点場	10：41	30.8℃		
第 3 湿原	10：23	【25.2℃】	79.1μS/cm	6.9
第 1 湿原	10：48	【29.4℃】	72.8μS/cm	7.0
第 2 湿原	12：20	【29.1℃】	48.6μS/cm	7.0

来場者数　計 57 人
（竹筒ポスト人数）

【電気伝導度】

毎年のことですが、この時期の電気伝導度が普段の倍以上の数字になります。電気伝導度は、水がどれだけ電気を通すかという数値です。不純物（電気を通すイオン）が多いと数値は高くなります。一般に低いほうがきれい？な（貧栄養）水ということになります。ただ、水道水でも 200μS/cm（マイクロジーメンスパーセンチメートル）前後ですから、いかに雨水に近いかという次元の話です。ちなみに雨水で 15μS/cm前後と言われています。普段の計測結果は雨水と近い数値です。夏場に高い要因として、暑さにより動植物等の分解量が多くなる。そのうえ水の流れが少なく、分解されたものが流れ出にくくなる。湧水湿原の貧栄養は、養分を流し出す（洗い出す？）ことで維持されているそうです。あるいは、この時期に滲み出る湧水の電気伝導度が高いという仮説も成り立ちそうですが？計測結果が 100 を超えるようなことがあったら、何か湿原に起こっていると考えていいのではないかと思います。注意深く見守っていきましょう。シルト流入不足問題は残りますが･･･（貧栄養な土の確保問題）。もともと湿原の水質変化を調べる調査です。ご確認を。

5 月 13 日のデータ

8 月 12 日のデータ

【サギソウ開花数調査準備】

毎年恒例のエコ推が主催するサギソウ開花数調査を 8 月 19 日（土）に実施します。保全の会が実施団体として委託されています。

昨年は１０３株と過去最低の開花数。今年はどうなるのでしょうか。12 日時点での開花状況は、調査対象の第 1 湿原はこれからの雰囲気。第４・第 2 湿原は最盛期近しという感じでした。

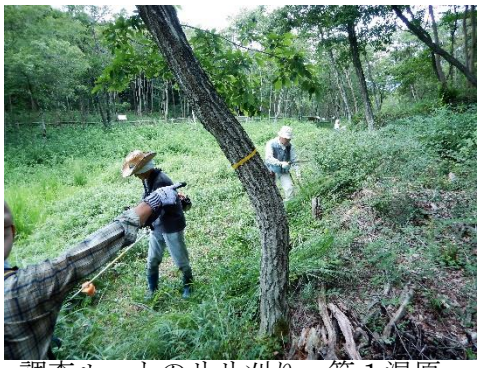
一昨年が 363 株なので今年は当たり年ではないかと考えています。予想として 400 株！今年は、冬場に湿原内のヌマガヤの刈り取り、そして今回観察ルートのササ刈り

咲き乱れるサギソウ第 2 湿原

を実施したので、陽光と視界も確保されると思われます。さらに、昨年に比べ開花時期が遅いというのも開花数という部分では好条件になるのでは。

加西市網引湿原のサギソウも遅れているとの情報が入っています。昨年はとっても早く咲き、調査時期のタイミングとずれが出ていたようです。ほぼ毎年同じ時期の調査ですが温暖化の影響を感じる昨年でした。

調査エリアの表示　第１湿原わかる？


調査ルートのササ刈り　第１湿原

今年も暑いのですが、春先の低温や夏場の天候不順などの影響で遅れているのかも。自然は気紛れで、花もそれに準ずるのが当然でしょう。同じ時期に調査しても結果は安定しないのかもしれません。

調査区画の明示や準備は整いました。一般参加も歓迎です。まだ空きがあります。（この時期はあちこちのサギソウ観察会と重なります･･･皿池湿原・松尾湿原も同日とか。情報交換できたら面白いですね。）

【観察できた動植物】

毎年お馴染みの花々です。写真だけで種名がわかりますか？左からサギソウ（鷺草）・ミズギボウシ（水擬宝珠）・コケオトギリ（苔弟切）・アギナシ（顎無）・ツチアケビ（土木通）の実・ヒナノシャクジョウ（雛錫杖）。**後半２つは菌従属栄養植物（腐生植物）です。大きさのイメージがつきにくいと思いますが、実際に見てください。**他にも**ミミカキグサ３種**も咲いていますが、これも遅れているようです。**ヒナノカンザシ**も見られました。**マムシ・ハッチョウトンボ。ヒメタイコウチ（写真を撮る前に逃走！）は一般参加の方が見つけられました。ラッキーですね。**

６月末のクビオレアリタケ

アリノシロイトタケ（仮称）

5月（会報117号）で紹介した**クビオレアリタケが、6月末に胞子を出したようです。さらに新たな展開が…アリ生の冬虫夏草に重複寄生する冬虫夏草が。仮称でアリノシロイトタケ（未確定）。**経過観察しなければ…

- **次回活動日8月19日（土）サギソウ開花数調査。ご協力を！**
- **８月27日（日）宝塚エコ講座と兼ねますご参加を。9月9日（土）24（日）定期活動**
- **8月24日（木）山門湿原研修ツアーです。まだ空きがありますのでお申込みお待ちしています。**